

Q 農道舗装に対する町の考えは

A 受益者負担を要する
県単独事業で



高本正 瑒 議員

●高本 農村は、安全で安心な食の提供と同時に国土の保全、豊かな自然、美しい景観の形成など様々な役を担っている。また都市と

農村の共生を目指した農村の活性化への取り組みも望まれている。集落で民家が火災になった時に消防車が河川に向けて水源を求めて進入した農道を舗装する要望がある。生活道については要網を作つて対応されているが、農道においても一定の基準などをもうけて、

舗装を前向きに取り組む考えはないか。

■町長 農道舗装は、県単独事業小規模農業基盤整備事業により実施している。この事業は農道幅員・事業費など補助事業の採択基準の定めにより、受益者負担（25%）が必要。採択条件に合っていないも受益者の負担がなければ実施できない。今後とも受益者の申請及び同意に基づき事業採択に勤めてゆく。



舗装を待つ農道

Q アレルギー体質の
幼児・児童を把握しているのか

A 対応必要な児童は21人である



岡田武士 議員

●岡田 ①現在の町内の保育所・小学校のアレルギー体質の人数を確認しているのか。

②町内の給食センターではどのように調理しているのか。
③対応していないとすれば今後どのようにするか。
■教育長 ①日本人の3人に1人がアレルギーに悩み64%の人がアレルギー体質である。保育所の対応が必要な児童は21人。
②町内保育所旧甲山、世羅西管内9施設の保



おいしいなあー学校給食

育所は、自校式、旧世羅町の4施設は給食センター方式である。未満児の調理は大田保育所調理場において対応している。現在15種類以上の原因となる食物の除去と、代替食の対応を行っている。保護者からの要望や治療の指導内容を聞き配慮している。
③児童保護者と保育所の連携を深め、実施可能な除去食や、代替食のサービスタについて、ガイドラインを定め継続をしたいと考えている。



Q

文字活字文化振興の推進を

A

諸施策に取り組み



西田美喜男議員

●西田 「文字活字文化振興法」が7月22日に成立した。

国民の活字離れや若者の読解力の低下が著しいことに、同法成立の背景が

あり、文字活字は人がコミュニケーションを深める上で欠かせないことであること、法律は国や地



知恵の宝庫 図書館

方自治体が積極的施策を展開することが必要だと強調している。

町長にこの法律と公立図書館の設置についての考えを伺う。また教育長に、この法律と学校教育における言語力の育成について見解を伺う。

■町長 法の趣旨が活かされるように諸施策

の取り組みをしてゆく。

3地区の図書館をより充実した図書館奉仕を提供し、資料の充実情報化の推進と環境の整備を図る。

■教育長 時宜を得たものであり、全ての国民が豊かな文字活字文化の恩恵を享受できる環境を整備していかなくてはならないと受けとめている。

言語力の育成が図れる効果的な手法の普及や教育方法の改善、教職員の養成と研修、環境の整備充実を図るため、司書教諭など人的整備、学校図書館の資料の充実に努める。



Q 住み良い世羅のための

A 総体的地域の住宅事情を把握する

●奥田 民間賃貸住宅増加で、周辺部がさみしくなる。同居が望ましいと思うが。

■町長 家族構成の変化や高齢者世帯の増加など住宅ニーズも多様化している。整備すべき戸数や高齢者入居に配慮する。

Q 我が町の教育環境整備は学校の説明責任を果たし、信頼される学校づくりを

Q 地積調査の進捗は

A 調査中(旧2町で77%)

●奥田 これからの経費も膨大である。見通しは。

■町長 今後16年程度要する。人件費は年に4千万円、を除いた補助金ベースで約4億7千万円、町負担約1億2千万円。相続事務も大変複雑で時間を要しているのが現状である。



奥田正和議員

●奥田 新町における教育環境整備について伺う
①学校現場の意見などを聞く機会はどうしているのか。

②適正規模の学校とは。
③通学の危機管理は、デマンドとスクールバスの協議の進捗は。

④高等学校との連携は。
■町長 ①教育委員会と校長が連携を密にし現場の意見を把握、校長会で情報交換している。②12、18学級といわれている。本町では大田小学校だけが該当している。③通学時の危機管理の実情は地域や団体の協力を地道に継続する。(教育長) 通学も教育の一環である。④高等学校から町内3中学校へ出向き専門的授業を行う予定。中高の校種を超え一体的な教育を期待する。

Q 常備消防と防災の町づくりは

A 自主防災組織の育成を支援



矢山 武議員

■町長 人員基準は32人で北部分署は28人体制で三原市に依託している。地域防災計画の見直しを行っており自主防災組織の育成と啓発を進める。

●矢山 大雨、地震に対応する訓練の充実と防災計画の具体化が必要と考える。9月1日の防災の日にあたって安心安全な町づくりの取り組みと常備消防の充実が求められると思うが。



Q 低米価の中での対応とイノシシ対策は

回る米価の中で、町の対策は。また、イノシシ被害が拡大する中で効果的な対策と駆除方法の充実について伺う。

●矢山 豊作になると区分出荷が必要となり、減反が次年度拡大される。生産費を大幅に下

■町長 区分出荷は30kg3千円で、10月15日の作況により10月末に決定される。イノシシ対策は広域による捕獲を行い47回の出動をい

Q 乳幼児医療費の無料化と介護手当の実現を

A 持続性を確保し維持する

●矢山 少子化対策が求められる中、安心して医療を受けられるように乳幼児医療費の無料化の復活をすべきでは。また、介護保険の改悪で在宅サービスも負担増となるが、寝たきりの方と介護をされている方への援助の考えは。

■町長 県の制度で実施しており実現は困難。個人給付は避けて持続性を確保し維持する。



檻に入っているイノシシ

Q 職員研修の成果は

A 効果出ると期待



豊田 勲議員

●豊田 町職員研修が新しく始められた。研修の成果、効果はどのように現れているのかまた、今後も続けるのかその費用対効果は。

■町長 4月にはハロース3店舗に3人。6月両備信用組合に2人派遣した。8月末で延べ17人。商工会研修33人、自治研修センターに22人。民間の経営感覚、コスト、接遇の実験をさせた。



Q お医者代困る人に援助を

A 広島市には制度がある

●豊田 生活保護基準スレスレで暮らしている人がいる。国保税には減免制度があるが、お医者代の窓口負担には支援がない。お医者代が窓口で払えない人に温かい制度を。

■町長 県内では広島市にその制度がある。国保制度では、自己負担分の補填は定められていない。世羅町の財政状況では、不可能と考える。

Q 小規模工事登録制度を

A 30万円まで課長決済

●豊田 町内には入札に参加できない小規模建築業者がある。不況で少しでも町の工事が受注できる制度をめざせ。

■町長 世羅町では、軽微な(30万円未満)工事。修繕は課長決済でおこなっている。質問の制度は今後、研究・検討したい。